常磐文藝

川

飯村　閑舟

毎日の
私の勤めは
トボ〳〵と
流れて海に
投ずべき
川の水である
山間の
僻地を縫ふて
ほとばしる
透明な水は
瀧に來て
眩暈と渦に
捲込まれつ
布流となつて
鬱蒼な
繁茂の木下
石の間を
沈默の裡に
過ぎ去つて
田畑の畔に
差蒐る
嗟……
百姓の一人が
肥槽をば
洗ひはじめ
汚物を流す
私は怒號を
渠の頭に
浴びせようかと
浮んだが
默然として
流動した
そしてD町の
裏通りを
悠々と
歩みつゝ

（完）

霞ヶ浦名産
燒ワカサギ
大海老
賣初めました
白魚ワカサギの
生ものも注文に應じます
平町二丁目
平館前
笹目分店

△土地建物
賣買幷ニ是ニ關スル萬般ノ御相談ニ應ズ
△床板、床緣
落掛
澤山新荷着
◎大谷石本場一等品寸法御望次第
磐城建物
株式會社
平町五丁目
電話五一八番

看護婦派出
の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

冬物來る！
東京問屋の復活と相場の安定
格安品充滿せり
特價品提供（十二月五日より　迄）
△正紺縞　金壹圓參拾錢
△ニコ〳〵　金壹圓五拾八錢
△木綿裏地　金八拾五錢
△綿ネル新柄　一丈物　金壹圓五拾錢
△白時赤　一丈物　金壹圓參拾八錢
改良外套、ヘジマエリ、二重廻、マント、可愛小供マント、婦人用東コート、ショール各種
△七五三御祝着　新柄
△御祝儀用品一式　豐富
▲實用向御仕着　各種
△毛糸は　現代の編物用として流行各色
△絹天足袋大々的廉賣
◇吉凶用御引物用反物各種多數取揃へ特に格安に御願可申候
三井吳服店
海岸線平町三丁目
電話長三十八番

社告
初冬の候彌々御清祥奉賀上候陳者今回正喜社と稱する廣告取次業を創業弊社關係の廣告掲載に關し貴意を得たるやに仄聞致し候處右は弊社と絶對關係無之且つ正喜社經由の廣告は一切掲載致さず候に付右に御諒知の上倍舊の御後援賜はり度懇願候也
尙ほ正喜社は弊社以外各新聞の諒解を得たる旨宣傳致し居り候趣に御座候へ共報知、東京日々東京朝日、時事、國民の各東京新聞社支局等も全々同社とは關係なきのみか協定したる覺えなしとの事に候間此段念の爲め併せて御諒解願上候
いわき新報社
磐城日々新聞社
磐城新聞社
常磐毎日新聞社
いはらき　福島民報　福島民友　福島新聞　平支局

私の川崎論

福島民報　山田磐麿

（九）

彼れが警察あたりで、仕事をする場合、彼れの動作、舉措を凝視すると、彼れの全身は一殊の緊張味を帶びてゐる事に氣が付く。

彼れの手に握られた萬年筆が、原稿紙の上を走つてゐる時と雖も彼れの耳は徒らに安逸を貪つては居ない。右の耳は電話に、左の耳は人の談話へと機敏な働きが斷えず續けられてゐると云ふ有樣である、其の際若し何等か暗示を得た場合、彼は直ちに問題の判明するまで執念く聞き質す、最後まで突き留め而して後止むと云ふ彼れの猪突的な精神には大概なものは呆れ驚かされる、人間としての川崎が彈力と意力とを以つて、猛然突擊すると說いた。其の彈力と意力を、記者生活にまで遺憾無く發揮してゐる彼れの新聞記事が、いつの時も異彩を放つてゐるのも要するに斯うした尊い眞劍味と、努力と熱心さとがあるからである。彼れは又憐かに二人前の働きをする男である、而して其の活動は決して平凡では無い、岩石の樣な堅さと、銅鐵の樣な強さとネバリ氣が一杯に漲つてゐる。

彼れの文章は彼れの思想と共に時代に平行してゐる潑溂と剛健とが斷わず紙面に躍動してゐる。紙上で政治を論議する場合、獨特の皮肉と警句とは痛快にも縱横に奔流する、而かも少しのイヤ味が流れてゐない。彼れは筆の人であると同時に又辯論の人として、壇上に花形の讃辭を双肩に擔ひ獅々吼する。句調及語音に多少耳障りの點あるとするも、雄辯家たるの資格は充分である。

彼れ齡未だ卅に滿たぬと、前途恐るべき人物である

（終り）

株式賣買中値
左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候
銘格　拂込　時價
磐城銀行　五〇〇圓　五七〇圓
平銀行　五〇〇　六八〇
磐越銀行　一二五　一〇五
磐城實銀　三〇〇　二七〇
田村實銀　一二五　一二五
四倉銀行　一二五　一二五
農工銀行　二〇〇　二五五
同　新　一五〇　一九〇
日七銀行　五〇〇　五三〇
同　新　一二五　一四五
七七銀新　一二五　九五
郡山電氣　五〇〇　三八〇
同　新　二五〇　七七
只見川電　一二五　六三
植田水電　一二五　一三五
好間水電　一二五　一三五
磐城建物　一二五　五五
磐城製菓　二〇〇　六五
平信託　五〇〇　四九〇
磐城勸業　一二五　一三五
磐城物產　三〇〇　二五〇
平製氷　二〇〇　二二〇
好間軌道　五〇〇　三五〇
小名商事　一二五　……
小名水產　一二五　……
小田炭礦　二五〇　五五
磐城炭礦　五〇〇　三七五
同　新　二二五　一五〇
磐城セメント　五〇〇　九一〇
同　新　一二五　三一〇
賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候
平町田町電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

大正十二年十一月十日第三種郵便物認可　（一）

常磐毎日新聞
十二月七日夕刊

定價
一部金貳錢　月極
ニ限リ一ヶ月卅錢
廣告料
五號十三字詰
一行五十錢
休刊日
日曜　大祭日の翌日
印刷所
福島縣石城郡平町田町十六番地
磐城新聞社印刷部
編輯人兼發行人
川崎文治
發行所
福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地
常磐毎日新聞社

石城各炭礦の悲慘事を防遏せよ

六日の通常縣會に於て井上茂作氏當局に肉迫

六日午後一時四十分から開會された通常縣會の劈頭に於て石城郡選出議員井上茂作氏登壇し『石城及び双葉兩郡の各炭礦は下層深く採掘するため各種の被害隨所に起り之れが防遏に努めねば將來如何なる悲慘事を惹起せんとも限らず縣は鑛業條令若しくは他の公法によつて徹底的に取締るの意志なきや次に關東大震災に依る縣下約一萬五千人の避難者を縣で募集した義捐金で救濟する考なきか』其他飯坂分署改築問題に就き當局に肉迫し是れに對して香坂知事は左の如く答へた

炭礦による被害狀態については實狀を調査し相當の研究をして見やう、次に震災民救濟については目下研究中であるがなるべく早く關係者と協議し分配方法を決定するつもりである尚ほ飯坂分署の改築は豫算緊縮の爲め止むを得ず豫算計上を見合せた譯である（福島特信）

電氣を種にして本縣技師と詐稱し

實直なる農民から……四千數百圓を捲きあゞ

東京府北豐島郡王子町字王子內田福三郎（三三）は本年三月石城郡上小川村大字上小川字川古尾鈴木子之松方に至り同人所有の水車を見分し『此水車は自家用の發電機を利用すれば將來非常の利益である』との口實にて同村大平多吉、柳內才七佐藤定保、豫本要之助等を欺罔し一方福三郎の相棒なる松崎修（三〇）は福島縣技師であると僞り工事保證金の名目で五百圓、電氣器械及附屬品代として三千八百九圓を騙取したる事發覺平署にて柴田警部補取調べの上詐欺罪として書類を檢事局に送らる

正喜社問題 愈警察沙汰

詐言を構へて入會金を强要

磐城時報社長佐藤作平氏は各新聞社と何等の協定を遂げざるに拘らず新聞雜誌廣告取次業を目的とした正喜社なるものを起し既に各新聞社と諒解あるが如き詐言を構へ廣告勸誘員上平某をして各處から五圓宛の入會金をせしめ殊に某家に對しては脅迫的な言辭を並べ各方面に迷惑を感せしむる等許すべからざる行動多き爲め磐城新聞、いはき新報、磐城日々新聞の三紙及び本社は結束し取敢ず平署に對して營業妨害の告訴を提起した

菜を三百把

石城郡磐崎村大字藤原字藤代木挽齋藤要助四八は本年六月中同村大井川とらの菜三百五十把を盜んだと平署に告訴さる

湯本公園から白骨現る

戊辰の役戰死者か

入山坑堀進中

石城郡湯本町入山炭礦にては坑道を擴張せんが爲め本日湯本公園下を堀進した處白骨が現れた戊辰の役に於ける戰死者の白骨らしいと

呑勘定を踏み酌婦を誘拐

其上に寢卷迄

本籍住處不明土工澁川源吉（三二）は本年十月廿日石城郡湯本町大字湯本飲食店佐藤いの方に登樓同家の酌婦伊達郡梁川町生れ齋藤すい（二四）を誘拐し飲み勘定を踏み倒して同家の寢卷を着たる儘逃走し平署に告訴さる

川前驛から米俵を窃取

無免許狩獵も

石城郡川前村大字[illegible]有林內本[illegible]（二八）は本年七月川前驛構內に積んであつた永山運送店保管の白米四斗入一俵（時價十五圓）を窃取し其他二回に亘つて二俵を盜んだ外去月廿五日頃からは狩獵免狀を受けず銃獵を爲した

炭車轉覆し

前額部に裂傷

石城郡磐崎村大字上湯長谷小野田炭礦雜夫高橋喜平治（六三）は去る四日午前七時頃炭身の後押しを爲し居たる際炭車轉覆し前額部其他に重傷を負へ生命危篤であると

こんなのは卵細胞の分化發育に際して男にも女にも切らずに中途半端で押し通した結果であるから、本質的に男女混合体であつて、外陰部も男らしい所と女らしい所が不完全ながら兩方備はつて居る、然し或る場合には本質的には女若くは男の一方であるのだけれども、其外部の形狀が出來損じて居るのもある、よく調べて見ても卵巢か、睪丸か一種類の性細胞しかない、即ち正しく女若しくは男の何れかに屬するのであるが外陰部を見ると却て之に反したやうな形を備へて居ることがある。例へば陰部の外見は女らしいと思つた者が、實は体內に睪丸を備へて居り、身体の發育等は全く男性的であるといつたものが時々出顯する。所謂變性女子とか云ふ種類のものは何れも之であつて、一種の不具であることは云ふまでもない、一体にして完全に男女であつた例はない、而して男も女も發育の當初は區別はないものである

眞面目な性慾問題

（五）變性女子

働くと僞る

安達郡番下村大字永田字山の內半澤何吉（四四）西白河郡吉子川村[illegible]新次郎（三〇）は石城郡[illegible]郷村大字宮大友寅吉方にて働くと稱し本年八月廿日十五圓宛を騙取し平署にて鳥田警部補取調中

內郷村の畑荒し專門

葱や菜を盜む

石城郡內郷村大字綴字堀內與市方土工佐藤宇一（六七）は本年十月から八回に亘り

□募集　文藝其他一般投稿を歓迎します

各所の畑を荒して葱や菜を盜み平署島田警部補取調べの上本日書類を檢事局に送らる

常磐片々

○時報の佐藤君廣告取次正喜社を開業

○其處は即ちサツト、ツクルベエ位な調子で始めたのだらうが

○お手盛りは食はぬと新聞社側にハネ付けられ……

○廣告主に迷惑を掛けぬ筈の正喜社が一層廣告主を苦しめるの結果に陷る

○イツソの事、名稱を不正氣社と改めてはどうだ、どうも正氣の沙汰でないらしい

○湯本公園から白骨、戊辰の役の戰死体

○骨無し男も役にたゝぬが、チヨツト骨ばかりでも工合が惡い

○井上縣議が炭礦界の悲慘事頻發を痛憤して縣當局に迫る

平町青年團員の演說

總會

既報平町青年團にては八日午後六時から郡會議事堂に於て秋季總會を開き明大教授高島平三郎氏の講演ある筈だが其他團員の演說左の如くであると

社會道德と青年の覺悟（桝田幸三郎）社會觀（大泉信雄）震災の處感（多田井笑次郎）未定（小松茂）我が宗教觀（島山辰雄）關西商業規察談（三森寅雄）

◇……不平受付……◇

◇……投書歓迎……◇

土地競爭入札　今度平町役場が競爭入札を執行する長坂の土地は、もと胡摩澤田代氏の所有地であつたのを役場が用水地として公益上必要と認め無理に買上げた土地であると聞いて居ます、然るに該地所が不用になつたから賣るのであるとすれば當然元の所有者に買上代金を以つて賣渡すべきであると思ひます、町當局の御意見は如何でせう

（伺生）

▼伊坂町長の答……是れは初耳なので土地臺帳を調べて見ました處成程明治卅四年十二月廿一日に田代ハマと云ふ人の土地を買つた事になつて居ますから其當時に何等かの條件を附して買上げたかどうかを更らに調べて見ます、條件がなかつたなれば此場合競爭入札に附する事は差支へないと思ひます

平町人事

▲出生

△新川町　千葉彦次郎四男義雄

▲婚姻

△東京府豐多摩郡千駄谷町三橋康豐（三四）鍛冶町山野邊マツヨ（二四）

▲死亡

△高月臺　飯村珍子（一七）

△久保町　田卷キヨ（二一）

△胡摩澤　花澤房子（一五）